



シリーズ
タンチョウ
Vol. 371

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

石下 亜衣紗

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



留学生ふれあい交流 in つるい

1月29日と30日に、「留学生ふれあい交流 in つるい」が開催され、北海道各地の大学に通う留学生24名が鶴居村を訪れました。1日目は鶴居村の紹介を聞いた後、チーズ作り体験を、2日目はサンクチュアリでタンチョウを観察した後、温根内でスノーシュー・歩くスキー体験をしていきました。

サンクチュアリ訪問の際には、レンジャーが解説を行いました。日頃の団体対応とは一味違い、通訳を介しての解説なので、できるだけ簡潔に話すように心がけます。ツアーの添乗員さんが通訳を兼ねる予定でしたが、参加者の中に通訳を目指している学生さんがおり、解説の通訳を買って出してくれました。まずは朝の給餌に合わせ、タンチョウをゆっくり観察してもらいます。日本に居ればイラストやモチーフなど何かしらの機会にツルを目にしますので、みなさん何となくイメージはあったようですが実物のタンチョウを見たら、その大きさと、近さにびっくりしていました。給餌の時間はタンチョウたちの動きも活発なので、頭の赤色の変化や威嚇行動、ダンスなども見てもらうことができました。

通訳さんもいましたが、さすが留学中の学生さんたち。英語の話せないレンジャー相手でも通訳なしの日本語で「何を食べているの?」「オスとメスはどこが違うの?」「歩く姿がとてがかっこいい」「子供が甘えているところが可愛い」など質問や感想をいろいろ話してくれました。すっかりタンチョウの魅力にメロメロの様子です。

観察の後は館内で、今こんなにいるタンチョウが一度は絶滅したと考えられていたこと、どうして鶴居村では給餌が行われているのか、感染症のリスク回避のために分散が課題であること、などをお話しました。そして本物の風切り羽（飛ぶための羽）とダウン（保温のための羽）を触ってもらい望遠鏡を使いアップで観察もしてもらいました。どんなお客さんでも風切り羽の丈夫さとダウンの軽さを体験した時は、良いリアクションをしてくれます。



みなさん出発時間のぎりぎりまでタンチョウを見ていたのが印象的でした。留学生の出身国は全員異なっており、そんな中でも一時間にも満たない間に人々を虜にする。タンチョウの魅力は世界でも指折りなのだなと実感しました。

笑顔がすてきな参加者のみなさん